



2016年3月期 中間報告書

2015年4月1日から2015年9月30日まで



SCSK株式会社

証券コード：9719

夢ある未来を、共に創る

株主の皆様には平素格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社第48期上半期（2015年4月1日～2015年9月30日）のご報告を申し上げます。当上半期の業績を総括するとともに、前中期経営計画の結果および2016年3月期を初年度とする新中期経営計画への取り組みなどにつきましてご説明いたします。

今後とも、株主の皆様のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長
中井 信英

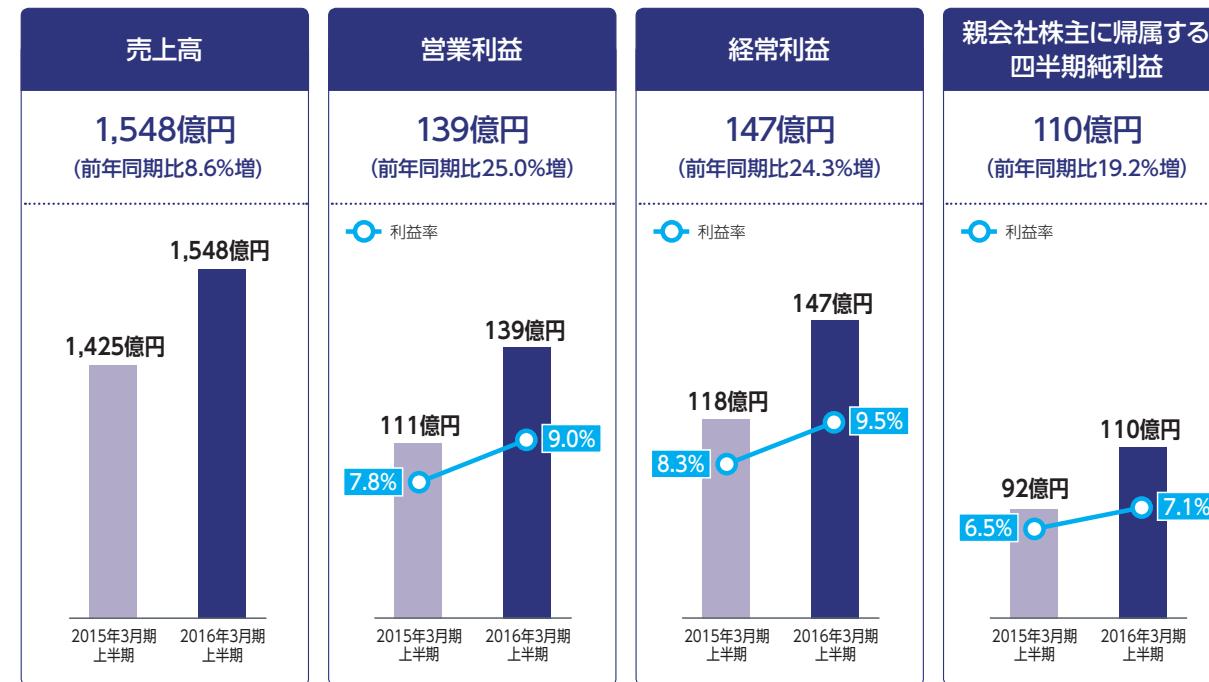
代表取締役社長
大澤 善雄

CONTENTS

| | | | |
|---|--------------------|----|--------|
| 1 | トップメッセージ | 9 | IRニュース |
| 2 | 2016年3月期上半期連結業績の概要 | 11 | 連結財務諸表 |
| 3 | 特集 中期経営計画 | 13 | 株式情報 |
| 7 | CSRへの取り組み | 14 | 企業情報 |

当上半期におけるわが国経済は緩やかな景気回復基調にあり、顧客企業におけるIT投資需要は大手企業を中心に増加基調にありました。金融業においては、銀行業・証券業・保険業などにおいて競争力強化を目的とする各種業務システムの開発意欲が旺盛であり、また、各種の制度改正対応のためのシステム改変需要などもあり、システム需要は大きく拡大する状況にありました。製造業や流通業においては、グローバル化対応やオムニチャネル、ビッグデータ関連など、戦略的なIT投資需要が顕在化しつつあります。また、通信業顧客におけるITプロダクトに対する継続的な需要や、各業界を通じての各種クラウド型ITサービスなど、様々な領域のIT需要が本格化してきているものと考えております。

業績につきましては、売上高は、金融業顧客や一部通信業顧客などのIT投資需要の高まりを受け、前年同期比8.6%増の1,548億円となりました。営業利益は、増収に伴う増益に加えて、業務品質向上施策による生産性の向上や不採算案件の減少などによる収益性の向上もあり、前年同期比25.0%増の139億円となりました。経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益は、営業増益などにより、各々前年同期比24.3%増の147億円および同19.2%増の110億円となりました。



前中期経営計画 (2011年10月～2015年3月) の総括

2011年10月、住商情報システム株式会社と株式会社CSKの2社の合併時、「クロスセルの推進」「グローバル関連ビジネスの拡大」「クラウド関連ビジネスの拡充」を基本戦略とする3カ年の中期経営計画を策定いたしました。これらの基本戦略を着実に遂行するとともに、将来の企業成長のベースとなる組織の統合・融合、事業の効率化、業務品質の向上を推進し、収益基盤の拡充を図った結果、当該計画期間において増収・増益、増配を続け、最終年度の2015年3月期には計画どおりの収益目標を達成することができました。

| 前中期経営計画 | | |
|---------|-----------|------------|
| | 目標値 | 2015年3月期実績 |
| 営業利益 | 250～300億円 | 280億円 |
| 営業利益率 | 8～10% | 9% |
| ROE | 10%以上 | 12% |

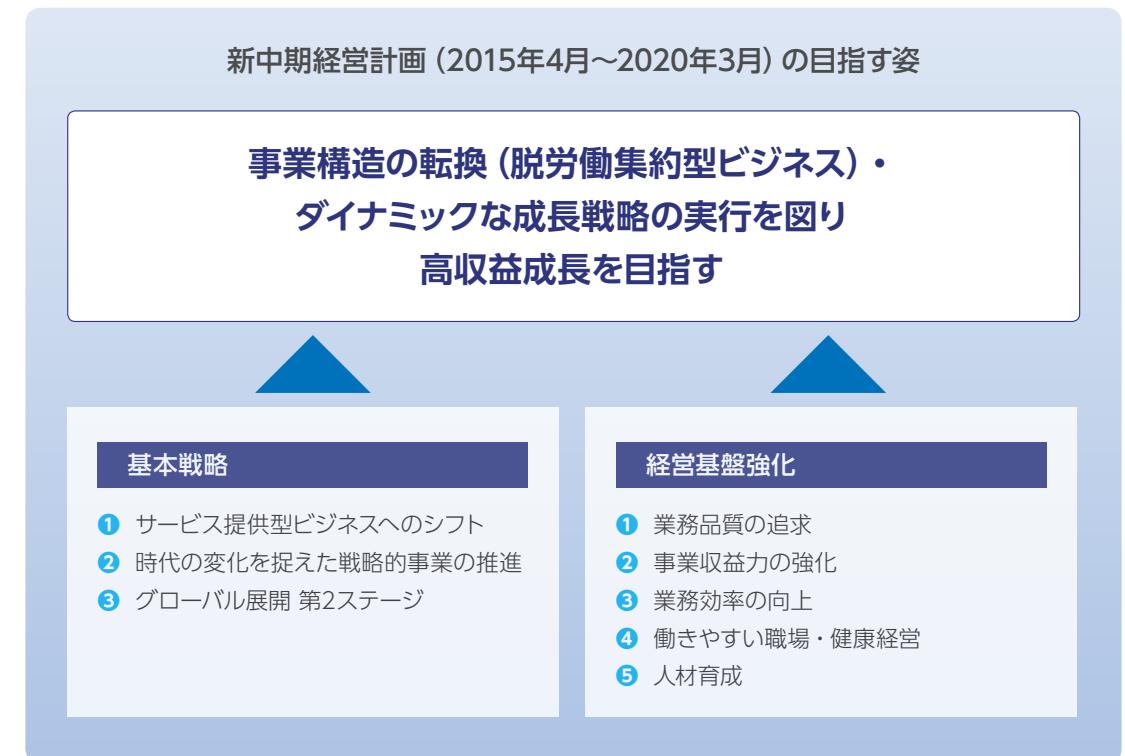
新中期経営計画 (2015年4月～2020年3月) の目標値

前中期経営計画の完了を受け、2015年4月に新中期経営計画を策定いたしました。2020年3月期を最終年度に、定量目標値として、営業利益500億円、営業利益率10～12%、ROE15%およびEPS（一株当たり当期純利益）320円を設定いたしました。

| | 2015年3月期実績 | | 新中期経営計画 |
|-------|------------|-------------|---------|
| | | 2020年3月期目標値 | |
| 営業利益 | 280億円 | 500億円 | |
| 営業利益率 | 9% | 10～12% | |
| ROE | 12% | 15% | |
| EPS | 150円 | 320円 | |

新中期経営計画 (2015年4月～2020年3月) の概要と戦略

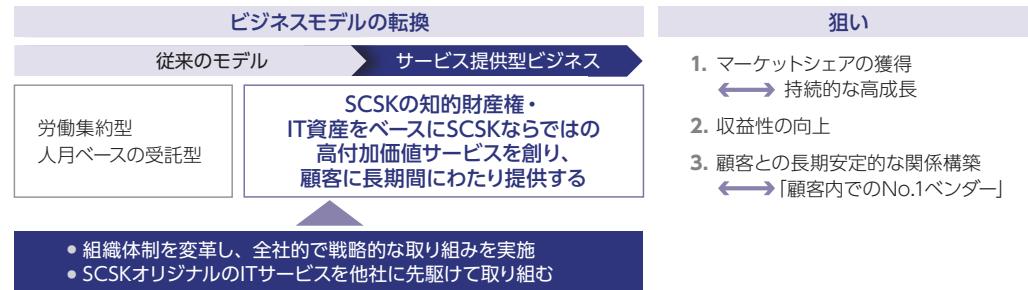
前中期経営計画での取り組みを通じ、合併による組織の融合はもとより、経営・収益基盤の強化を図ってまいりました。新中期経営計画では、「成長」をキーワードに、「サービス提供型ビジネスへのシフト」「時代の変化を捉えた戦略的事業の推進」「グローバル展開 第2ステージ」という基本戦略、ならびに、「業務品質の追求」「事業収益力の強化」「業務効率の向上」「働きやすい職場・健康経営」「人材育成」といった、経営基盤の強化に向けた取り組みを二つの柱とし、さらなる企業成長・収益拡大を追求してまいります。特に、基本戦略の推進において、これまでの事業構造の転換を図り、中期的にダイナミックな収益成長を実現し、企業価値・株式価値のさらなる向上に努めてまいりたいと考えております。



基本戦略 1 サービス提供型ビジネスへのシフト

将来の高成長を実現し、さらには、収益性を一段と高めるためには、既存ビジネスのさらなる強化はもとより、IT市場におけるサービス化の潮流を捉え、サービス提供型ビジネスへの事業転換を図ることとしたいと考えております。

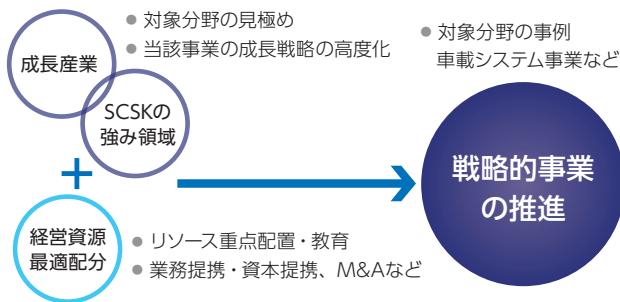
システムエンジニア一人ひとりの労働力を収益力のベースとする「労働集約型」の従来ビジネスから、当社がこれまで蓄積してきた知的財産・IT資産を最大限に活用の上、提供する、SCSKならではの高付加価値ITサービス事業へとシフトし、より収益性の高い事業構造への転換を図ります。



基本戦略 2 時代の変化を捉えた戦略的事業の推進

当社が持続的な発展を遂げていくためには、成長性の高い分野において、かつ、お客様と共に成長できる領域に経営資源を集中的に配分することが不可欠であると考えております。我々の強みを発揮できる分野において、将来性、成長性を見極めながら新しい戦略的事業を創造し、確固たる市場ポジションを確立し、未来に向けての持続的な発展を目指します。

例えば、日本の主力産業の一つである自動車業界では、環境保護、安心・安全、少子高齢化への自動車の対応に向け、エンジンや変速機などに組み込まれている電子制御部品 (ECU) のソフトウェアがますます複雑化、高度化してきており、これらを高品質かつ効率的に開発することは自動車メーカーおよびサプライヤーにとって至上命題になりつつあります。当社としては、こうしたソフトウェア開発において新世代の開発サービスやソフトウェア製品を提供することで、日本の自動車産業のますますの発展に貢献したいと考えています。



基本戦略 3 グローバル展開 第2ステージ

前中期経営計画に掲げた、日本企業の海外展開をITの分野から支援する市場を「グレートアジア市場」と捉える、従来の軸足に変更はありませんが、新中期経営計画では、この市場に向けたITサービス事業のさらなる拡大を目指します。

グローバルネットワーク



日系メガバンクは現在、海外展開に向けた本格的な取り組みを加速しており、当社では現在、海外支店・現地法人に向けたIT構築支援体制の強化を急ピッチで進めています。また、グローバルにビジネスを展開する自動車業界の車載ソフトウェア分野においても、需要拡大が想定されるアジア・欧州地域を中心に、M&Aや業務提携を含む体制整備を行ってまいります。

経営基盤強化

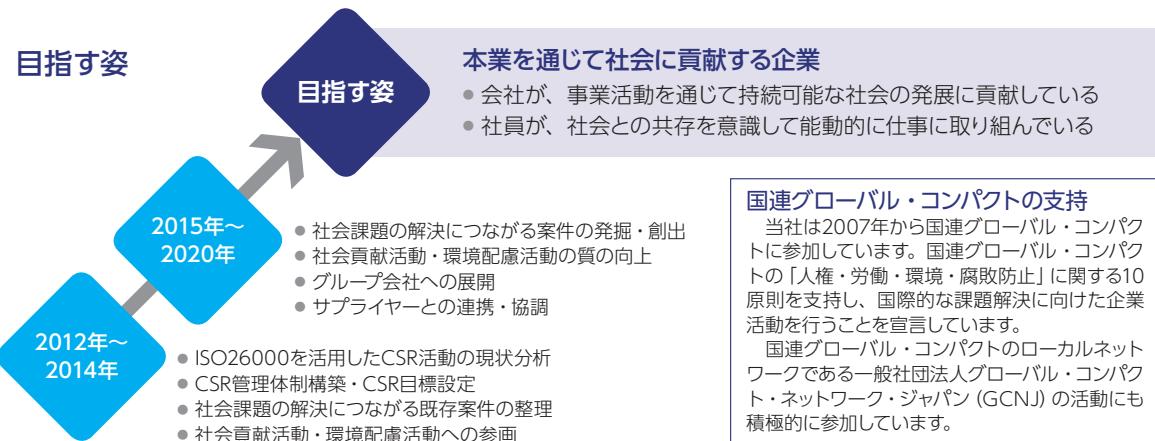
前中期経営計画時に取り組んでいた業務効率化と働きやすい職場環境整備に続き、新中期経営計画においてもさらなる経営基盤強化に向けた取り組みを行ってまいります。まずシステム開発を中心にした「業務品質の追求」施策ですが、SE+ (SmartEpisode Plus) という社内開発標準を業務スタンダードとして、当社グループ企業はもとより主要パートナー企業にも活用いただき、同時に、開発プロセスの見える化を徹底的に推し進め、開発品質・生産性の向上を目指してまいります。従来の不採算案件の抑制というステージから一歩踏み込み、契約時想定からの収益低下をなくすことで、絶対収益ならびに収益率の向上を図ってまいります。

また、「働きやすい職場・健康経営」施策については、これまでの残業削減・有給休暇取得の奨励を中心とする効率的な働き方を目指した取り組みの推進を継続するとともに、社員の健康こそが高い生産性・創造性につながるの考えから、全社的な健康増進策を導入しています。加えて、育児支援や介護支援の取り組みを含め、一層の働きやすい職場の提供・健康経営の推進を行ってまいります。

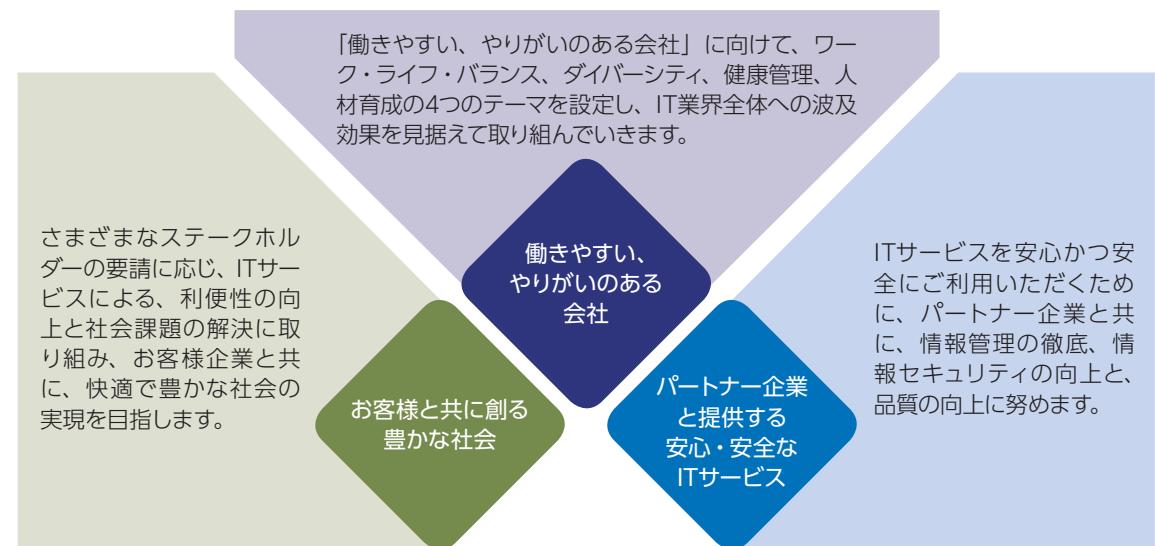
※ SE+は、SCSKが培ってきた開発現場の知見を結集し、プロジェクト管理・システム開発のプロセス体系を整備した開発標準です。プロセス定義書、成果物テンプレート、ガイドブック、支援ツールなどを用意しています。

SCSKのCSR

当社は、目指す姿に向けて3つの重要テーマを設定し、テーマに沿ったCSR活動を通じて、豊かな社会づくりに取り組んでいきます。



SCSKのCSR重要テーマ



働きやすい、やりがいのある会社

健康経営実現のための推進施策

社員の健康増進をさらに推し進め、疾病の予防と、生産性の高い創造性豊かな仕事に取り組めるように、2015年4月から「健康わくわくマイレージ（わくわくマイル）」制度を導入しています。



「健康わくわくマイレージ」は、健康の維持・向上に必要な行動の習慣化と、毎年受診する定期健康診断結果およびその改善状況をポイント化し、1年間の蓄積に応じて最大3万円をインセンティブとして支給するものです。

介護支援の取り組み

介護中の社員を対象に、柔軟な勤務制度の整備をはじめとする各種支援を行っています。短時間勤務や深夜勤務・時間外勤務の制限のほか、在宅勤務を認め、社員が仕事と介護を両立できるようサポートしています。また、介護休暇や両立支援休暇などの休暇制度も整備しています。介護休業制度では、対象家族1人につき通算365日間、6回まで分割して休業することができ、介護休業中の一部期間において介護休業手当を支給します。

2014年度からは全部課長と40歳以上の全社員、約3,500名を対象に介護セミナーを順次開催し、介護に関する基礎的な知識を習得するとともに、当社の両立支援制度への理解を深めてもらう機会にしています。

ちょこサポ (SCSKちょこっとサポート)

「ちょこサポ (SCSKちょこっとサポート)」とは、一般社団法人MAKOTOが支援する東北被災地の起業家・経営者のIT課題を解決する社員参加型のプロボノ活動（職務上のスキルや専門的知識・経験を活かしたボランティア活動）です。



東北の起業家・経営者の方々は、社会課題解決のために全力で走るが故に、業務の効率化を検討する時間を割けない状況になりがちです。そこで当社の社員が現地に赴き、ヒアリングを通して課題抽出を行い、解決につながるサポートを実施しています。

ちょこサポは、東北の起業家による社会課題解決の側面サポートという社会的意義のみならず、当社社員の成長の場としても効果を発揮しています。



◆ 情報化促進貢献個人等表彰 経済産業大臣賞受賞

当社は、経済産業省などが推進する情報化月間において、2015年度「情報化促進貢献個人等表彰」として「経済産業大臣賞（企業等部門）」を受賞しました。「情報化促進貢献個人等表彰」とは、高度な情報処理技術の研究・開発、高度IT人材の育成、IT活用が遅れている企業へのIT活用の導入、ITを活用した社会課題への解決など、または情報処理の安全の確保などについて、先導的役割を果たし、または顕著な成果をあげたと認められる個人・企業などが表彰されます。当社は、長時間労働が常態化しているIT業界において、数年に渡り「働き方改革」と「専門性認定制度」を軸とした人材育成基盤の構築を図り、IT人材にとって最重要要素である働きやすさと自己成長を追求してまいりましたが、その結果、「人を活かす会社」としてその実績が広く認知されたことなどが評価され「経済産業大臣賞」を受賞することとなりました。

◆ 人を活かす会社ランキングで2年連続総合首位

日本経済新聞社が実施した2015年の「人を活かす会社」調査において、当社は2年連続総合ランキング1位となりました。同調査は「雇用・キャリア」「ダイバーシティ（人材の多様性）経営」「育児・介護」「職場環境・コミュニケーション」の4つの評価軸に基づいて社内制度や仕組みを分析したものです。

当社では、「働きやすい、やりがいのある会社」を目指して、ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティ、健康管理、人材育成の4つの観点で、環境整備を進めています。社員がいきいきと働くことで、一人ひとりが生み出す付加価値が当社の成長や好業績につながり、ステークホルダーの皆様へ利益還元できるという好循環のサイクルが生まれるとの考えから、取り組みを強化しています。

◆ なでしこ銘柄に選定

当社は、働き方の改革と女性社員のキャリア開発支援など、女性人材の活用を積極的に進めている企業として、経済産業省と東京証券取引所から2014年度「なでしこ銘柄」に選定されました。

経済産業省と東京証券取引所は、2012年から東証一部上場企業を対象に、①女性のキャリア支援、②仕事と家庭の両立支援の二つの側面からスコアリングを行い、各業種上位企業の中から財務面でのパフォーマンスもよい企業を「なでしこ銘柄」として選定しています。

当社は、2012年から女性のキャリア促進のための支援プログラムを整え、毎年さまざまな取り組みを展開しており、女性役員およびライン管理職を2018年に100人にするという目標を設定しています。

また、柔軟な勤務体系の整備や休業・休暇の各種制度の拡充を図り、仕事と家庭との両立サポートにも力を入れております。



◆ 健康経営銘柄に選定

当社は、社員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業として、経済産業省と東京証券取引所から2014年度「健康経営銘柄」に選定されました。

「健康経営銘柄」の選定にあたっては、①経営理念・方針、②組織体制、③制度・施策実行、④評価・改善、⑤法令遵守・リスクマネジメントという観点に加え、財務面でのパフォーマンスも評価されています。

当社では、経営理念である「夢ある未来を、共に創る」の下、「人を大切にします」という約束を掲げ、その実現のために「働きやすい、やりがいのある会社」作りを追求しています。社員の充実したワーク・ライフ・バランスの実現、それによって生産性の高い創造性豊かな仕事ができ、お客様と社会への貢献につながる。それを「働きやすい、やりがいのある会社」と社員が実感できる。こうした好循環実現への思いを役員・社員全員が共有する努力を不断に行いつつ各種施策に取り組んでいます。



◆ ディスクロージャー優良企業に2年連続で選定

当社は、第21回(2015年度)公益社団法人 日本証券アナリスト協会による「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」におきまして、2年連続でコンピュータソフト部門における第1位の優良企業に選定されました。

本選定は、日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会が、企業情報開示の促進・向上を目的として1995年から毎年実施している選定制度です。

同研究会が、企業のディスクロージャーを評価する基準として設定した、①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス、②説明会、インタビュー、説明資料などにおける開示、③フェア・ディスクロージャー、④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示、⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示の5つの評価分野において、当社は高い評価をいただき今回の選定に至りました。

当社はこれからも、株主・投資家の皆様をはじめとするさまざまなステークホルダーへの積極的なディスクロージャーに努めるとともに、企業としての社会的責任（CSR）を念頭に、当社グループに係る情報の適時、公平かつ公正な開示に取り組んでまいります。



連結財務諸表

| 科目 | 前連結会計年度 2015年3月31日 | 当上半期 2015年9月30日 |
|-------------|-----------------------|--------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 2,234 | 2,216 |
| 固定資産 | 1,108 | 1,116 |
| 有形固定資産 | 641 | 658 |
| 無形固定資産 | 79 | 86 |
| 投資その他の資産 | 387 | 371 |
| 資産合計 | 3,342 | 3,333 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 1,607 | 1,479 |
| 固定負債 | 349 | 393 |
| 負債合計 | 1,957 | 1,872 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 1,269 | 1,353 |
| 資本金 | 211 | 211 |
| 資本剰余金 | 30 | 30 |
| 利益剰余金 | 1,111 | 1,195 |
| 自己株式 | △ 84 | △ 84 |
| その他の包括利益累計額 | 55 | 47 |
| 新株予約権 | 1 | 1 |
| 非支配株主持分 | 59 | 58 |
| 純資産合計 | 1,385 | 1,460 |
| 負債・純資産合計 | 3,342 | 3,333 |

| 科目 | 前上半期 2014年4月1日～9月30日 | 当上半期 2015年4月1日～9月30日 |
|------------------|-------------------------|-------------------------|
| 売上高 | 1,425 | 1,548 |
| 売上原価 | 1,090 | 1,180 |
| 売上総利益 | 334 | 367 |
| 販売費及び一般管理費 | 223 | 228 |
| 営業利益 | 111 | 139 |
| 営業外収益 | 10 | 10 |
| 営業外費用 | 3 | 2 |
| 経常利益 | 118 | 147 |
| 特別利益 | 0 | 0 |
| 特別損失 | 6 | 4 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 112 | 143 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 11 | 16 |
| 法人税等調整額 | 6 | 14 |
| 四半期純利益 | 94 | 112 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 1 | 2 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 92 | 110 |

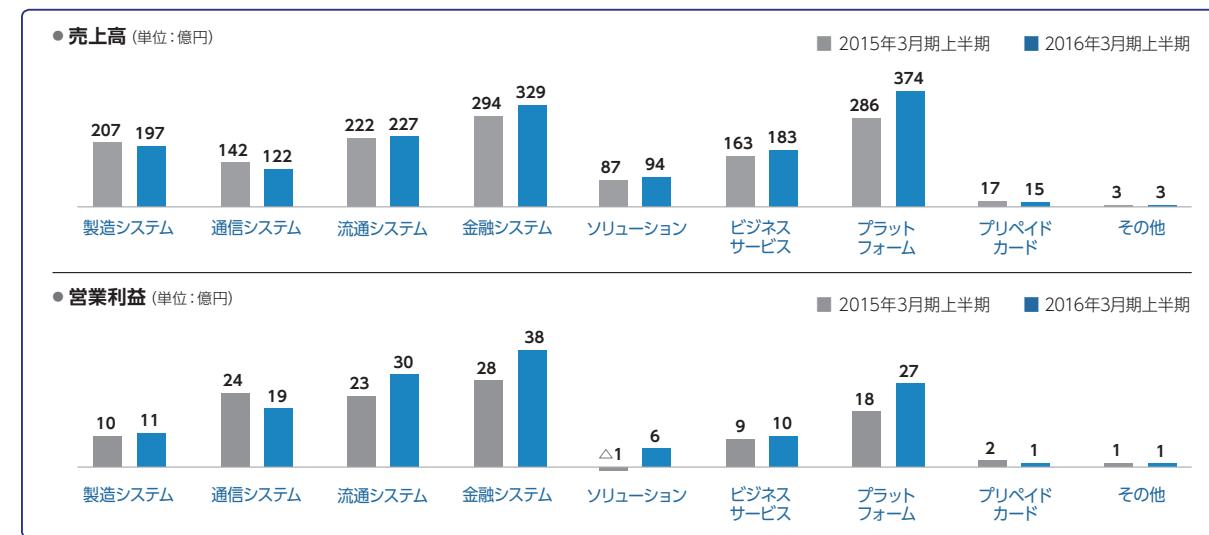
| 科目 | 前上半期 2014年4月1日～9月30日 | 当上半期 2015年4月1日～9月30日 |
|----------------------|-------------------------|-------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 115 | 124 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 36 | △ 51 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 49 | △ 32 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 0 | 0 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | 102 | 40 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 590 | 857 |
| 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額 | — | △ 0 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 692 | 897 |

配当について

配当につきましては、合併以降、収益成長に応じて増配を続けてまいりましたが、2015年3月期において、中間配当金25円と合わせ、年間配当金は1株当たり2014年3月期比10円増配の50円といたしました。また、2016年3月期におきましては、これまでの当社財務基盤・収益力の向上ならびに今後想定される高収益成長を勘案し、株主の皆様に対してのより一層の利益還元を図るべく、年間配当金は4年連続の増配となる1株当たり20円増配の70円を予定しております。



〈セグメント別業績〉



株式情報

株式の状況 (2015年9月30日現在)

◆ 株式の総数

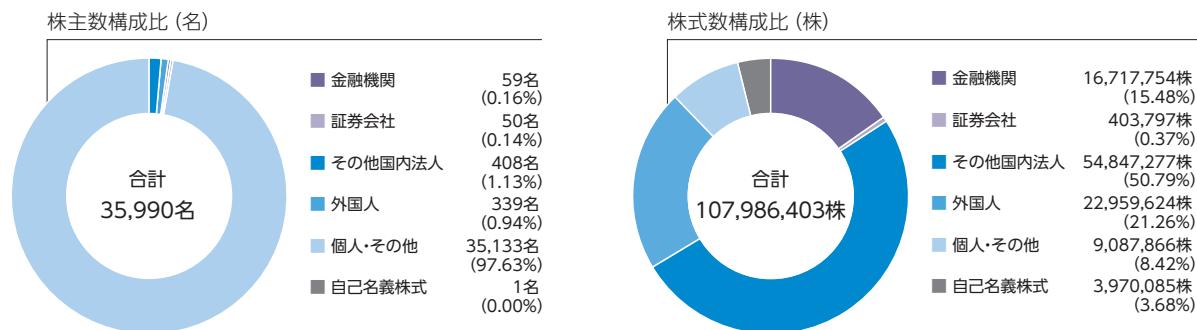
発行可能株式総数 …… 200,000,000株 発行済株式数 …… 107,986,403株

◆ 大株主

| 株主名 | 持株数(株) | 持株比率(%) |
|---|------------|---------|
| 住友商事株式会社 | 52,697,159 | 50.66% |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 6,185,400 | 5.95% |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 2,846,400 | 2.74% |
| SCSKグループ従業員持株会 | 2,636,174 | 2.53% |
| JPMC OPPENHEIMER JASDEC LENDING ACCOUNT | 1,920,008 | 1.85% |
| STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY | 1,376,872 | 1.32% |
| 株式会社アルゴグラフィックス | 1,015,500 | 0.98% |
| BBH FOR BBHTSIA NOMURA FUNDS IRELAND PLC / JAPAN STRATEGIC VALUE FUND | 858,600 | 0.83% |
| THE BANK OF NEW YORK 133522 | 822,200 | 0.79% |
| 資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口) | 761,300 | 0.73% |

(注) 当社は、自己株式3,970,085株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は発行済株式の総数から自己株式を控除して計算しております。

◆ 株式分布状況



企業情報

経営理念

私たちの使命

夢ある未来を、共に創る

お客様からの信頼を基に、共に新たな価値を創造し、夢ある未来を拓きます。

私たちの3つの約束

人を大切にします。

一人ひとりの個性や価値観を尊重し、互いの力を最大限に活かします。

確かな技術に基づく、最高のサービスを提供します。

確かな技術とあふれる情熱で、お客様の喜びと感動につながるサービスを提供します。

世界と未来を見つめ、成長し続けます。

全てのステークホルダーの皆様とともに、世界へ、そして未来へ向けて成長し続けます。

会社概要

| | |
|-------------------|--------------------------------------|
| 商号 …………… SCSK株式会社 | 設立 …………… 1969(昭和44)年10月25日 |
| SCSK Corporation | 資本金 …………… 21,152百万円 |
| (略称 SCSK) | 従業員数 …………… 11,792名(連結)(2015年9月30日現在) |
| | 上場取引所 …… 東京証券取引所 市場第一部(証券コード:9719) |

役員 (2015年6月25日現在)

| | | | |
|--------------------|-----------------|-----------------------|----------------------|
| 取締役会長 ※1 …… 中井戸 信英 | 取締役 …… 福島 紀美夫 | 取締役 …… 山崎 弘之 | 常任監査役 ※3 ※4 …… 高野 善晴 |
| 取締役社長 ※1 …… 大澤 善雄 | 取締役 …… 古沼 政則 | 取締役 …… 遠藤 正利 | 監査役 ※4 …… 松田 康明 |
| 取締役 …… 鎌田 裕彰 | 取締役 ※1 …… 熊崎 龍安 | 取締役 …… 加藤 敏幸 | 監査役(非常勤) ※3 …… 小川 英男 |
| 取締役 …… 栗本 重夫 | 取締役 …… 谷原 徹 | 取締役(非常勤) ※2 …… 内藤 達次郎 | 監査役(非常勤) ※3 …… 安浪 重樹 |
| 取締役 …… 鈴木 正彦 | 取締役 …… 市野 隆裕 | 取締役(非常勤) ※2 …… 洲上 岩雄 | ※1は代表取締役 |
| 取締役 ※1 …… 鈴木 久和 | 取締役 …… 福永 哲弥 | 取締役(非常勤) ※2 …… 安田 結子 | ※2は法令に定める社外取締役 |
| | | | ※3は法令に定める社外監査役 |
| | | | ※4は法令に定める常勤監査役 |

グループ一覧

◆ 海外

| | |
|------------------|-----------------------------|
| SCSK USA Inc. | 住商情報システム(上海)有限公司 |
| SCSK Europe Ltd. | SCSK Asia Pacific Pte. Ltd. |

◆ 国内

| | | |
|-----------------|----------------------------|--------------------|
| SCSK九州株式会社 | SCSKプレッシュエンド株式会社 | SCSKニアショアシステムズ株式会社 |
| SCSK北海道株式会社 | 株式会社CSIソリューションズ | 東京グリーンシステムズ株式会社 |
| 株式会社JIEC | 株式会社アライドエンジニアリング | 株式会社クオカード |
| Winテクノロジー株式会社 | SCSKシステムマネジメント株式会社 | 株式会社エイトレッド(*) |
| SCSKサービスウェア株式会社 | ヴィーイー・リナックス・システムズ・ジャパン株式会社 | 株式会社アルゴグラフィックス(*) |
| 株式会社ベリサーブ | SDC株式会社 | |

(*) 持分法適用関連会社

株主メモ

| | |
|-------------------------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月開催 |
| 配当金支払 基準日 | 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 |
| 公告方法 | 電子公告にて掲載。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 |
| 株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| 株主名簿管理人 事務取扱場所 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (郵便物送付先) | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (電話照会先) | ☎ 0120-782-031 |
| (インターネット ホームページURL) | http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html |

免責事項

本報告書は、SCSKグループの業績および事業戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、SCSKおよびグループ会社の株式購入や売却を勧誘するものではありません。本報告書の内容には、将来の業績に関する意見や予測などの情報を掲載することがありますが、これらの情報は、現時点の当社の判断に基づいて作成しています。よって、その実現・達成を約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。本報告書利用の結果生じたいかなる損害についても当社は一切責任を負いません。また、本報告書の無断での複製、転記などを行わないようお願いいたします。

SCSK株式会社

〒135-8110
東京都江東区豊洲三丁目2番20号 豊洲フロント

ホームページのご案内



▼ 株主・投資家情報はここから



SCSK

<http://www.scsk.jp/>



見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。



環境に配慮した
「ベジタブルインキ」を
使用しています。